

2011 年度第 1 回執行理事会議事録

期 日：2011 年 6 月 18 日（土） 13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：久田副会長 渡部副会長 藤本常務理事 斎藤副常務理事 井龍 小嶋 石渡 坂口 高木 内藤 中井 星 向山 各理事，事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：宮下会長 西 平田 藤林 山口

*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者 13 名，委任状 5 名，合計 18 名の出席。

*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 東日本震災対応について：藤本理事

- ・東日本大震災の災害復旧事業部会を作る。会員を主体とし，地質学会の震災に対する作業部会報告書に関連した内容で，被災地に直接的に成果を還元できる調査研究に助成する（来年度の大阪大会での発表を求める）。
- ・標本レスキューについては，南三陸町魚竜館への対応（移動・保管）を中心に，情報収集中。地質学会として行うにふさわしい内容は何か，今後被災地と詰めていく。われわれが資金を出すことによって他の資金の呼び水になる方向が望ましい。
- ・被災地の学校教育支援等の要請が一般的なものだけ，防災教育は地惑連合でも議論されているが，連携はまだ行っていない。
- ・応用地質部会として，水戸の地質情報展会場（武道館）でポスター展示を行う。
- ・執行理事会・関東支部幹事会の共同提案で「東日本大震災と日本地質学会の責務」という夜間小集会を行う予定。作業部会のフォローアップや災害復旧事業の進捗等の内容を考えている。

2. 水戸大会（合同学術大会）における優秀ポスター賞について：星理事

今回は「地質学会担当のシンポジウム，セッションで発表された会員によるポスター，すなわち地質学会のシステムで申し込まれた会員によるポスター」を対象とする。

3. 英文の編集・出版規則：「数式の書き方」細則の英文化について：小嶋理事

英文化（A4，3-4 ページ）を行う。合見積もりを取った上で発注する。

学会の英文ページからリンクして，英文の編集規則類がある事を見えやすくする。

4. 特集号の論文の早期公開の実施について：小嶋理事

「早期」公開は HP 上の会員ページで行う。要旨はフリーで公開する。なお印刷後 3 か月たつと J-Stage で一般公開になる。

5. 小藤文次郎賞の短報枠：今年度小藤賞の対象とならなかった短報の扱いについて：小嶋理事

小藤賞の対象となる短報が残っているうちは，小藤文治郎賞とは別に短報を対象とする小藤賞が並立して存在することを確認した。この認識を各賞選考委員会に伝える。

6. IAR 関係：井龍理事

- ・W-B 社の IAR 担当者の変更に関して。

引き継ぐ時間がないまま，担当者が変わった。この様な状態では，パートナーシップを持って国

際誌を運営できないので、編集委員会はW-B社にスムーズな引き継ぎができるよう申し入れる予定。学会の名前で出すときはドラフトを回覧する。

・ IAR20 周年記念 (?) 招待論文および企画に関して

Vol. 20-1 の招待論文は大幅にページ超過となる予定。20-2 にもう 1 編招待論文が掲載される可能性がある。

7. 選挙関係：井龍理事

地質学会の選挙は代議員(社員)を選んで、その中から役員選挙を行うシステム。理事選挙時の立候補者の抱負・経歴等を選挙後に一般会員に対し Web 等で公開して透明性を高める方向で検討する。

8. 部会・支部の連絡ツールとして SNS (Social Net Service) 導入：坂口理事

導入することを了承した。

9. 地学オリンピックの広報活動のためのコンテンツ制作：坂口理事

地学オリンピック支援委員会と広報委員会でコンテンツを作成し、それを地学オリンピック日本委員会も使用できるような方向で進める。

10. その他

1) 連合共同声明案について

基本的なところは一次案を了承し、最終案に向けて検討する。

2) 連合経由：「科学技術に関する基本政策について」見直し案に関する意見募集 6/14-6/26

東日本の大地震を受けて第 4 期科学技術基本計画の再検討を行うとのこと。

作業部会報告の内容を盛り込んだ意見を出すことにする。藤本理事が原案作成後メールでの検討。

II 報告事項

(1) 運営財政部会：総務委員会

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

1. 地球化学会からの年会（9/14-16、北大）の共催を承諾した。

2. 朝日新聞社・テレビ朝日主催の「第九回高校生“科学技術チャレンジ” ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ～JSEC2011～」の後援名義使用依頼があり、例年のとおり承諾した。

3. 新潟大学理学部から 2 件の企画展示（会期：7/9-8/31）について講演依頼があり承諾した。

・糸魚川ジオパークの化石展：新潟大学駅南キャンパス ときめいと

・佐渡の大地と海：新潟大学旭町学術資料展示館

<その他>

1. 文科省から「科学技術賞」、「若手科学者賞」の推薦依頼：締め切り 7/19、学会への応募締め切りは 6/30 →HP, News, Geo-Flash 掲載

2. 尾瀬保護財団より「第 15 回尾瀬賞」の募集、募集期間 4/1-8/31 →HP, News, Geo-Flash 掲載

3. 第 33 回沖縄研究奨励賞の推薦依頼：締め切り 9/30、学会への応募締め切りは 8/31 →HP, News,

Geo-Flash 掲載

4. 挨拶状：日産財団は4月より、旧財団法人から公益社団法人に移行。
5. 挨拶状：全地連新役員就任、新会長 成田 賢(応用地質社長)
6. 挨拶状：石灰石鉱業協会役員就任、会長 渡邊 穰
7. 挨拶状：化学情報協会は4月より旧社団法人から一般社団法人に移行。
8. 挨拶状：資源素材学会役員交代：新会長 中村 崇
9. 挨拶状：土木学会役員交代：新会長 山本卓朗
10. 石油資源開発(株)：組織改編
11. 地質学雑誌の貸出：TBS テレビ関係の道具会社(有) オルフ(代表若山博氏)より、秋のドラマの道具として地質学雑誌等の借用の打診があり、確認の上貸出を了承した。
12. JABEE の定時総会開催(6/23) 代理出席 橋辺

<会員>

1. 今月の入会者(79名) →
正会員 12名 院割 57名 学部割 10名
2. 今月の退会者(正1名)
野村香織
3. 今月の逝去者(正1名)
山田 純(5/19)
4. 5月末日会員数
賛助：26 名誉：73 正会員：3,966(正会員：3,844 正(院割)会員：120
正(学部割)会員：2) 合計 4065(昨年比 -64)
5. 50年顕彰会員11名を10名に訂正：小林治朗会員、ファイルの入会年が間違いであったことが本人の申告により判明
6. 学会表彰(楯)ならびに功労賞(賞状)の顕彰文案について検討

<会計>

1. 受託研究について
 - ・委託機関より委託内容を示した仕様書と見積もり要領が送付され、連携事業委員会にて諾否を検討し、受託の方針を決定した。
 - ・学会規程に基づいて見積書(案)を提出したが、委託機関において書式等について点検中。
2. 名誉会員の顕彰用メダルおよび50年会員顕彰用バッジの作製について
名誉会員用小藤メダルの数が不足、50年会員用バッジの数が不足。

(2) 広報部会：広報委員会(坂口)

Geo-Flash とニュース誌は順当にでている。

(3) 学術研究部会：行事委員会(星)

- 1) 水戸大会報告
- 2) 日本地質学会 2013年仙台大会実行委員会(案)
 - ・実行委員長：石渡、庶務：西、会場・渉外：中村(教)、広報：高嶋・佐々木、
会計：海保・鈴木(紀)、プログラム：長濱、佐藤 懇親会：中森・山田

巡検：平野・高嶋・遅沢（今後の人事異動などにより変更の可能性があります）

・日時 2013年9月13日（金）～16日（月）（余裕をみて4日間予約）

・場所 東北大学川内北キャンパス講義棟

・来年度以降の地質情報展について、産総研としては第3期中期計画にも盛り込み継続して実行する方向で考えている。

・2014年年会は西日本支部で開催地検討中。2015年は信州大学で行うことが中部支部で決定された。

(4) 学術研究部会：国際交流委員会（石渡）

水戸大会への学術交流国等、海外からの来訪者の情報を予め把握して、事前準備を行いたいので、情報提供をお願いしたい。

(5) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（小嶋編集委員長）

1) 今月の編集状況（6月13日現在）。

2011年度投稿論文 総数27編 [論説14（和文13，英文1），短報3（和文2，英文1），ノート5（和文5），報告5（和文5）] 口絵3（和文3） 査読中42編 受理済み16編（うち通常号8 特集号8）

2) 短報の取扱い：過渡期の編集方針を下記のようにしている

①現在編集中の短報は、査読者を増やすなどの措置は行わず、そのまま編集を続け、受理されたら論説として掲載する。その際、著者には日本語要旨をつけてもらう。

②今後、短報として投稿されてきた論文に対しては、著者に事情を説明し論説として扱う。著者が承諾すれば、日本語要旨をつけてもらい再投稿をお願いする。

(6) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会（井龍編集委員長）

・編集状況の報告

手持ちの受理原稿が不足している。2011年(20巻)の3号以降の受理原稿が足りていない半年で13編しか投稿がない。

(7) 社会貢献部会（藤林）報告無し

(8) ジオパーク支援委員会 報告無し

(9) 地学教育委員会（中井）報告無し

(10) オリンピック支援委員会

・イタリア大会への代表4人が選ばれた。

・2012年国際地学オリンピックは日本に代わってアルゼンチンで行うことになった。

スペイン語圏ではオリンピック活動が行われていたので、無理なく引き受けられた。

・2012年日本大会の中止に伴い、すでに寄せられている協賛金については返却する方向。

(11) 地質災害委員会

・島根大学東日本大震災支援・調査グループ：

責任者；石賀裕明・三瓶良和・酒井哲弥 地球資源学科有志 生物資源科学部 野中研究室

調査対象地域：仙台市宮城野区、名取市、岩沼市の海岸地域

津波へドロ堆積物の調査

(12) 環境地質部会ほか主催のシンポジウム「人工改変と東日本大震災」(6/4開催 明海大学) につい

て環境地質部会長(楡井)より報告。参加者は200人超、市民が多く参加し、地学重視の必要性についての発言もあったとのこと。

以上